

「これからの生徒、これからの教師」

新しい時代に必要となる資質・能力を生徒に育むための「学校教育デザイン」は、一度描けばよいというものではなく、時代や環境の変化を踏まえて描き直すことが求められる。

その度に学校現場は、様々な課題に直面することになるだろう。それでも、学校は、教師は、生徒のために、その歩みを止めることはない。そうした不断の努力を重ねる学校現場へ、3人の教師が、それぞれの立場からエールを送る。

教師が本質を問い、 凡事を徹底させる中で 生徒は志を抱いていく

東京都立西高校 寺島 求もとむら

本質を見抜く力を 日々の授業で養う

私が生徒に育みたいのは、地球規模の課題に挑もうとする志です。そのような志は、本質を見抜く力を礎として確立されるものです。物事の本質を見抜いた時初めて、人は魂を突き動かされ、その感動は大きな壁をも乗り越えようとする志へと昇華します。だからこそ、流行や甘言に振り回されることなく、根拠を持って本質を判断し、納得解を探し続ける態度を、様々な社会課題を抱えたこれからの時代を生きる生徒に育みたいのです。では、私たちの授業は、本質を見抜く力を養う場になっているのでしょうか。

「この問題を見て何を感じる?」

「どうしようと思う?」。数学の授業でそう生徒に問いかけてきました。生徒の答えから発想力が見て取れますし、解にたどり着こうとする過程では、思考力を見ることができます。そして、この問題の本質は何か、出題者はどんな力を測ろうとしているのか、それを考えなさいと話してきました。問題の解き方を教えているだけでは、生徒は「数学は社会で役に立たない」と思うかもしれません。しかし、数学を通して論理的な思考力を身につけ、本質を見抜く力を養っているのだと理解できれば、文系の生徒であっても、数学は社会で役立つものだと考えるようになるでしょう。もちろん、知識の習得も大切ですが、それはやみくもな暗記やドリル学習だけによるものではない

く、教師が精選した事項の理解が起点となって、生徒の中で知識が広がっていくような授業の中でなされるべきです。本質を見抜く力を身につける機会として、授業、学校行事、部活動を大切にしたい。その願いを私は、「凡事徹底」という言葉で繰り返し生徒に伝えてきました。遅刻をしない、挨拶をする、授業に集中する……あたり前のことができない生徒には、教師が「なぜ、それが未来を生きる君たちに大切なのか」を語るべきです。教師自身も凡事徹底する姿を見せることが重要です。

◎教職歴38年。同校に赴任して11年目。3学年主任。数学科。東京都教育委員会指定の進学指導重点校である東京都立八王子東高校において、進路指導主任などを歴任。2018年4月から再任用教員。19年度をもって教壇を降りる。



「学校教育デザイン」を描く今と未来

生徒が語る 寺島先生からの「未来への学び」



寺島先生は、授業開始5分前には必ず教室に来て板書を始めます。授業が始まったらすぐに僕らが集中できるように準備してくれているのです。そして、定期検査や校内模試の結果は、どの先生よりも早く、しかも度数分布までつけて返却してくれます。先生は先生がやるべきことを通して、「凡事徹底とはこういうことなんだよ」と、僕たちに教えてくれている気がします。(3年生 横田陸さん)



「言われたことをやるだけではなく、すべきことは何かを自分で考えなさい」と寺島先生はよくおっしゃいます。依然として、出る杭は打たれる社会だからこそ、高校時代から、自分が何かをしようという意志を持ち続けなければいけないと思います。授業や部活動などで、自分の頭と手を使う中で、自らのアイデンティティを確立していくことも、僕ら高校生にとっての凡事徹底だと思います。(3年生 大山真由さん)



広い視野で相手を見て、その人のためになることを考えられるのが寺島先生です。今後、AIが発達しても、人とコミュニケーションを取ることは人間にしかできないはず。だからこそ、高校時代に身につけなければいけないのは、自分自身のことを理解した上で、周囲の人を生かしていく力だと思います。AIにはできない人間の役割が果たせる大人、寺島先生のような大人になりたいです。(3年生 熊井萌実さん)



どんなに高い目標を打ち明けても絶対に笑わず、「君なら、できるんじゃないの」と本気で言ってくれるのが寺島先生です。大人の中には、自分が間違っている子どもには謝らない人がいますが、寺島先生は自分が勘違いしていた時などはすぐに謝るし、自分から率先して生徒に挨拶もしてくれます。生徒に求めることを自分が徹底しているのです。信じられる人は、こういう人なのだと思います。(3年生 古川幸佳さん)



東京都立西高校

◎昭和12年に創立された府立第十中学校を母体とする。教育理念は「文武二道」「自主・自律」。国際社会で活躍できる人材の育成を目指す。東京都教育委員会指定の進学指導重点校。

◎設立 1937 (昭和12)年

◎形態 全日制/普通科/共学

◎生徒数 1学年約320人

◎2019年度入試合格実績(現役のみ)

国公立大は、東京医科歯科大、東京工業大、東京大、一橋大、京都大、大阪大などに107人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、中央大、東京理科大、早稲田大などに延べ394人が合格。

◎URL <http://www.nishi-h.metro.tokyo.jp/>

38年間の教師生活を通して、私は、定期検査の答案を調査後の最初の授業で必ず返却してきました。生徒の学びの意欲が高まっている「旬」を逃したくないという私なりの矜持(きんぎょ)があり、その実現のために時間管理を工夫するなどしてきました。生徒も教師も求められることは同じです。教師は誰もが、生徒のことを大切に思っています。ただ、寂しいことですが、生徒の行く末を最後まで見届けることはできません。だからこそ私は、毎日の授業で未来の生徒とつながろうとしました。授業の延長線上に生徒の未来があるからです。日々の授業と生徒の未来の間に橋を架ける職人、それが教師なのです。